

2009年2月6日

浅間山 2009年2月2日噴火における降灰の分布および量について

要旨：2月2日1時51分頃に発生した小規模噴火に伴った山体近傍域の降灰について、等重量線図を作成した。最も火口に近い林道沿いでは $400\sim 500\text{ g/m}^2$ 、また、 100 g/m^2 の当重量線は、軽井沢駅を越えてさらに南東方向に伸びることがわかった。また、等重量線図をもとに見積もられた降灰量は、 $2.0\sim 2.4\times 10^7\text{ kg}$ となった。同じ手法で見積もった2004年噴火の噴出量（吉本ほか，2005）と比較すると、9月1日噴火の量の約半分程度で、11月14日噴火のそれにほぼ匹敵する。

[等重量線について]

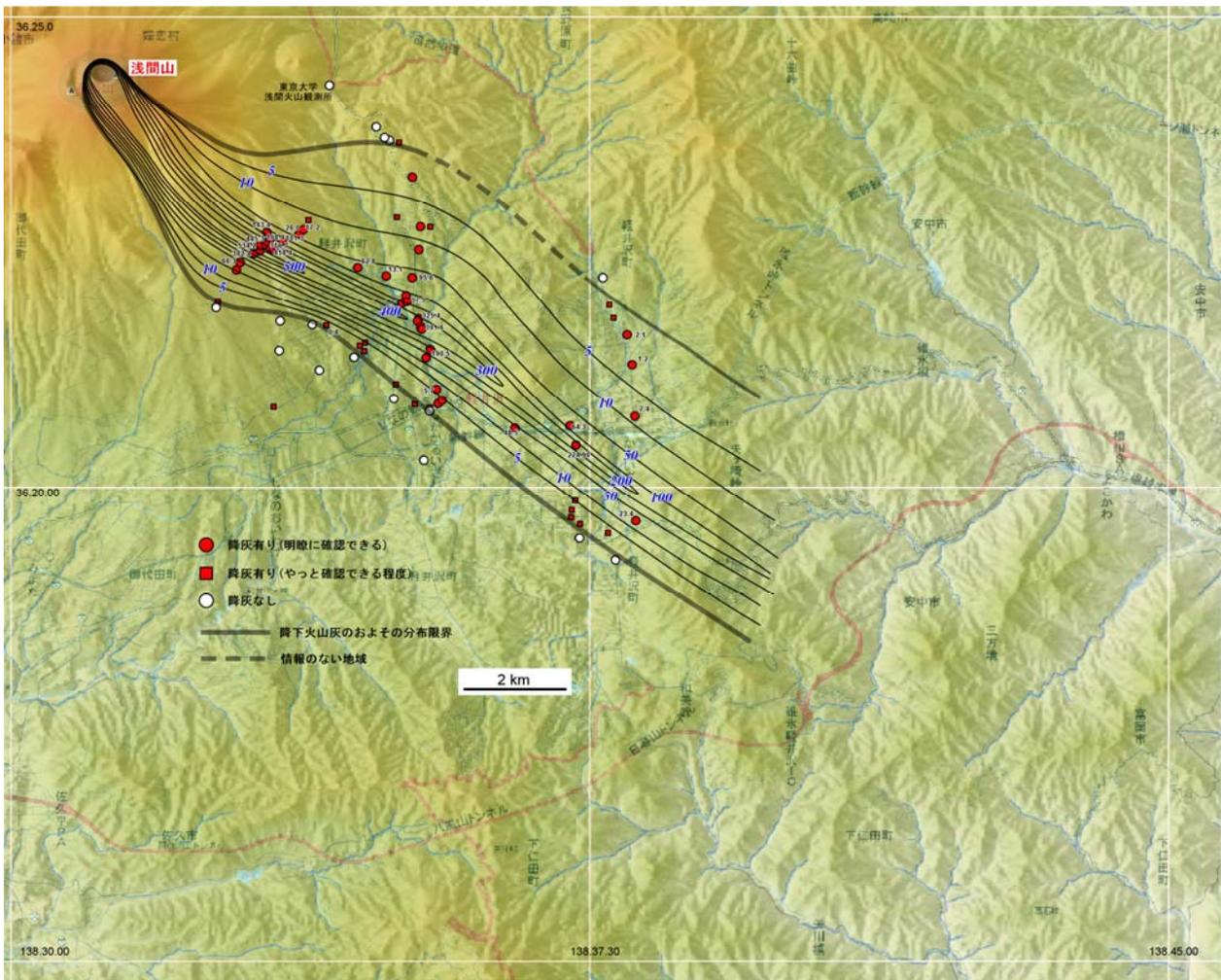


図 等重量線図

※ すでに公表されている降灰分布域をもとに作成している。

※ 山体近傍地域の火山灰は雪上に堆積したものである。火山灰は雪とともに採取し、融雪後にろ過および乾燥させてから重量を計測した。

[降灰量の見積もり方法について]

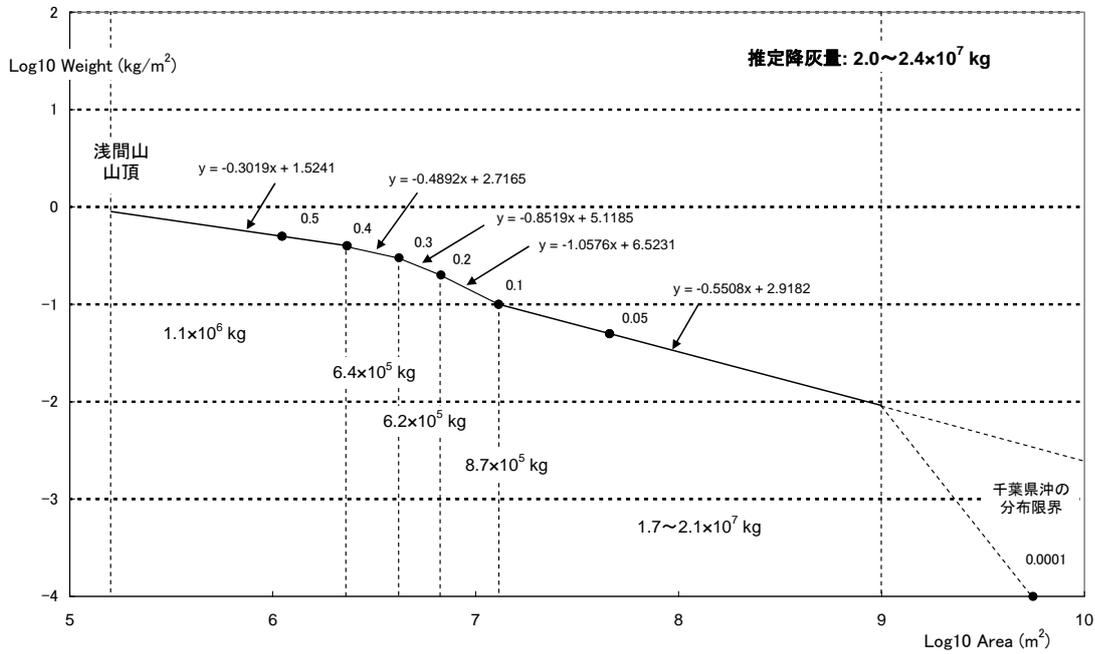


図 降灰域 (m²) と重量 (g/m²) の関係

- ※ 降灰量の見積もりは、2004年浅間山噴火における降灰量の見積もり手法（吉本・他, 2005; 宝田・他, 2001）にもとづく。
- ※ 0.05 g/m² の等重量線の作成には、日本大学文理学部長井雅史氏の協力を頂いた。
- ※ 堆積量の見積もりの幅 (2.0~2.4x10⁷ kg) は、Log₁₀ Area (m²) = 9 より遠方の降灰を含めるか否かによる。